

船出の前日

一人称・語尾・方言・男女逆転○

（最初のみモノログ）

船出は、風のある晴れた日に限る。

日差しと潮風にさらされた甲板から手を振ろう。

*

式典も無事終わったし、船出は明日で変更ないってよ。港とはまたしばらくお別れだな。こんな日だし、少しでも昔話に付き合ってよ。赤ワインの一杯くらい、おごるからさ。

むかしむかし。希望なんて持たない僕は、毎日に忙殺されて息の仕方しかたも忘れそうだった。何者かになれないのはしかたない、才能も情熱も持っていない。人づきあいも下手。そのくせ、誰かとつながってみたくて、つながったら面倒で、一人で苦しくなるんだ。馬鹿みたいだろ？でも、馬鹿にできないよな。正直言うと、今でもたまににその渦うずに落ちることがある。「つらい時に傍そばにいてくれる奴が友達なんだ」とか、安い言葉だと思ってたけど、人によっては、信じてみるのも悪くない：かな、「今は」。

ほんの小さな好奇心で僕は航海こうかいに出た。一步踏み出したら、思ったよりずっと海は広くて、驚いたよ。常識が違ったり、理不尽な波に殴られたりもした。クラークンに襲われたのは忘れられないね。

でも、一番は：渦うずの多いところでしくじって、のみこまれるって時に、あの船に出合ったことかな。知っての通り、豪華客船なんかじゃない。人は入れ替わるし、自分だって乗組員Aだし。その中でいつの

間にか：君が近くにいたんだ。最初は（あれ、またいるな）くらいに思ってたよ。これだけ人が多いとね。

船出の前日

みんながどこから来て、この海で何をして、どこへ行くのか。気にならないわけじゃないけど、潮の流れは予測できない。浮き沈みはど
うしたってある。いずれ苦しい波に遭うなら、晴れの日くらい、気持ち
だけでも楽しもうと思ってる方がいいし、苦しくなった時に甘やか
してくれる奴が傍にいた方が良い。その方が生きやすいし、自分も少
しだけ誰かにそう出来たらいい、と思う。理想論だけだな。

当然いつかはお別れだ。それまでにどれだけ自分が満足できるか、
遊び上手になれるかが重要で、君とはもっと楽しめそうな気がしてる。
君と僕の羅針盤は、どうやら原理が似てるらしいって、あの船で分か
った気がするんだ。

君がどちらに舵を切るか、当てて見せようか。きっと君は「取り舵」。
左に切るっていうのは、未来に向かうってことだから。

一年経って新しい船を待ちながら、僕はもう次の航海に期待するつ
もりでいるんだ。君もそうならもつと良い。

グラスを上げてよ。僕らの船出に

「Saludi!」(乾杯!の意味。正しくは「ル」にアクセント)